

# 自ら学び、考え、行動する生徒の育成

～ 新聞を活用した活動を通して ～

上越市立中郷中学校

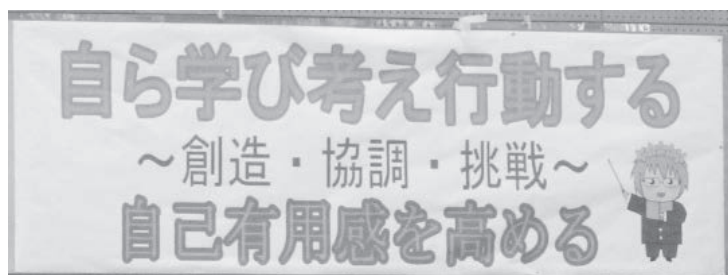
## 1 N I E実践のねらい

### (1) 研究主題とのかかわり

本校は、「主体的に学ぶ子どもの姿」を「自ら見通しをもち、考え、行動する生徒」とし、研究主題を「自ら学び、考え、行動する生徒の育成～自己有用感を高める学級集団づくりを通して～」とした。そこで、2年継続のN I Eの活動を研究主題に迫るためのひとつの方策と捉え、N I Eの目標と共通点がある総合的な学習の時間に視点をあて、「課題解決に向けて、読み取ったことを活用しようとする態度を身に付ける」また「調べ、考えたことを基にして、わかりやすく伝える力を身に付ける」ことをN I Eの目標とした。

### (2) 生徒の実態

「自己有用感」をキーワードに、互いを認め合える、支え合える、磨き合える関係づくりを目指し、「クラス会議」を取り入れて、安心して学校生活を送れるような環境づくりに努めてきた。さらに、自分の考えに自信をもって、学級や集団の中で伝える力の向上を目指すことが求められている。そこで、自己有用感を高める授業づくりにN I Eの視点や活動を取り入れ、自分の考えの根拠を明確にし、より具体的に相手に意見を伝えられる生徒が育成できると考えた。



## 2 本年度実践の概要

2年次は、1年次の実践を基としながら、touch（触れる）・input（知る）・output（伝える）の3観点に内容を整理して実践を進めた。

### (1) 主な実践内容

#### 関係機関との連携

- (1) 上越教育大学支援プロジェクト
- (2) 北海道教育大学函館校

#### touch（触れる）

- (1) 新聞に触れる環境づくり
  - ① 学年ごとの新聞を読む場所の設置（全学年）
  - ② 朝読書の時間の活用（全学年）
- (2) 学年や委員会等での活動
  - ① 新聞閲覧場所の管理（図書学習）
  - ② 日直によるお薦めの新聞記事と感想発表（全学年）

**input (知る)**

- (1) 職員と生徒の学習会の開催
  - ① 職員研修：「N I E に関して」
  - ② 全校授業：「新聞の基礎講座」
  - ③ 1 年生：「新聞の基礎」「新聞の作り方」
  - ④ 3 年生：「新聞記者の視点を学ぶ授業」
- (2) 学年や委員会等での活動
  - ① 新聞の要約活動（全学年）
  - ② 職員が選ぶ記事特集ポスター作製とその展示コーナーの設置（職員）
  - ③ 昼の放送「N I E コーナー」（広報放送委員会）
- (3) 総合的な学習（全学年）
  - ① 新聞回し読み
  - ② 新聞記事の活用

**output (伝える)**

- (1) 学年や委員会等での活動
  - ① 健康にかかわる記事による啓発活動（保健給食委員会）
  - ② 学習に関わる啓発活動（図書学習委員会）
  - ③ 夏休み課題「新聞記事コンクール」応募（国語科）
  - ④ きらきらキラリへの応募（1 年）
- (2) 総合的な学習（全学年）
  - ① 記事のスクラップとポスター作成
  - ② 学習テーマに沿ったインタビュー活動
  - ③ 新聞形式によるまとめ
  - ④ 函館市立南茅部中学校とのオンライン交流授業（3 年）



**各学年新聞コーナー**

放送委員会や日直はここから新聞を持っていきます。



**記事特集コーナー**

特集を組んで、記事を集めポスターにして掲示しました。

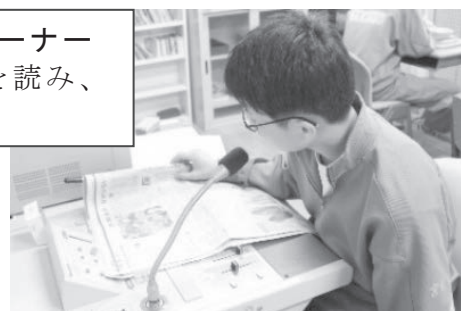


**昼の放送 NIE コーナー**

毎日、新聞記事を読み、伝え続けました。

**給食保健委員会**

健康に関して、新聞記事を活用して、啓発活動を行いました。



## (2) 実践の特徴

### ① 総合的な学習の時間の活用

N I Eの目標を考えたときに、総合的な学習の時間の目標と通ずるものがあることから、N I Eを1つのツールとして総合的な学習の時間に取り入れた。新聞の回し読みからの新聞づくり、インタビュー活動の学習と導入、新聞形式によるまとめの導入など、意図的にかつ計画的に実践を重ねた。

### ② 日常活動での蓄積

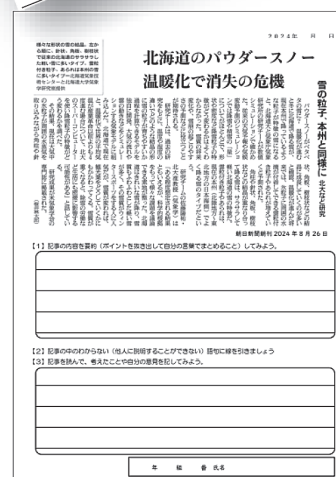
学級での要約活動や日直による記事紹介、放送委員会による記事紹介や図書委員会による新聞配達と管理、保健委員会による記事を使った啓発活動などが生徒の手によって展開されてきた。また、職員によるテーマに沿った記事によるポスター展示などによって、新聞が身の回りにあることが当たり前の環境づくりを進めた。

### ③ 関係機関との連携

専門的な立場で助言や協力をいただくために、上越教育大学の学校支援プロジェクトと連携を進めた。また、2年間で、延べ9回ものN I Eの学習会を行って、生徒も職員も学びを深めた。

### ④ 全職員の協働

小規模校ならではの機動力とチーム力を発揮できるよう用務員をはじめ全職員を巻き込んだ取組を工夫し、「チーム中郷」としての協働を進めた。



**要約活動**  
5 W 1 Hを掲示  
毎週1回実施

## (3) 2学期の総合的な学習の時間の主な活動

テーマ	ねらい	N I Eに関わる主な活動
1 学年 福祉	<p>(1) 高齢者や関わる人たちの思いや願いに気付くとともに、課題を見つけ、解決の見通しをもって計画を立てることができる。</p> <p>【チャレンジ力・課題解決力】</p> <p>(2) 地域の一員としての自覚を深め、他者への思いやりや進んで地域貢献しようとする態度を養う。</p> <p>【コミュニケーション力】</p>	<p>(1) 福祉に関わる新聞記事の回し読みと新聞作成</p> <p>(2) サロン訪問や敬老会でのインタビュー活動</p> <p>(3) 新聞づくりによるまとめ</p> <p>★授業研修 (11月10日) 「高齢者が元気になる壁新聞を作成しよう」</p>

<p>2 学年 キャリア</p>	<p>(1) 自己の生き方を見つめ直し、望ましい職業観と職業への関心をもてるようになる。 【チャレンジ力・課題解決力】</p> <p>(2) 社会の一員としての自覚を深め、他者への思いやりや進んで社会貢献をしていくことの大切さに気付く。 【コミュニケーション力】</p>	<p>(1) 職業に関わる新聞記事の回し読みと新聞作成 (2) 修学旅行時のインタビュー活動 (3) 新聞づくりによるまとめ</p> <p>★授業研修（11月10日） 「修学旅行での学びを新聞で伝えよう」</p>
<p>3 学年 防災</p>	<p>(1) 災害時における危険を認識し、日常的な備えを行うとともに、状況に応じて、的確な判断の下に、自らの安全を確保するための知識や行動力を身に付ける。 【チャレンジ力・課題解決力】</p> <p>(2) 他の人々や集団、地域の安全に力を尽くそうとする態度を養う。 【コミュニケーション力】</p>	<p>(1) 新聞記者の話を聞き、新聞記者の技を学ぶ。 (2) 防災学習におけるインタビュー活動 (3) 新聞記事の作成によるまとめ</p> <p>★北海道教育大学函館校 野寄研究室との連携 ★授業研修（12月5日） 「防災を通して、地域に貢献しよう」</p>

### 3 実践例

#### (1) 1 学年 総合的な学習の時間「高齢者が元気になる新聞を作成しよう」

##### ① 本時のねらい

壁新聞について、読み手に伝わりやすい記事になるよう視点をもって推敲することができる。

##### ② 構想とNIEとの関連

班ごとに作成した記事を持ち寄り、互いに読み合ったり、アドバイスし合ったりすることで、関わり合いながら、よりよいものを目指して推敲に取り組む姿を目指す。そのため、読み手を意識した内容になるよう、これまでの学習で培った新聞を書く際の基礎的な知識

（5W1H、正しい言葉・やさしい言葉、逆三角形）を活用させる。

##### ③ 推敲するための視点

- ア 5W1Hを踏まえて書いているか
- イ 見出しは適当であるか
- ウ 高齢者に伝わる表現になっているか
- エ 書き手の伝えたいことが明確であるか



オ 他の班の記事の内容で自分も取り入れてみたいところ

④ 主な流れ

- 新聞の基礎的な知識を確認する。
- 他の班がどのような記事を書いているのか読み、アドバイスを書き、伝え合う。
- 自分たちの班へのアドバイスをもとに、記事をどのように書き改めればよいか確認、アドバイスし合う。
- 各自で、自分の書いた記事を読み直し、記事を書き直す。



(2) 2学年 総合的な学習の時間「職場体験を成功させよう」

① 本時のねらい

修学旅行の学びを新聞形式にまとめ、読み手に自分が伝えたいことが伝わる見出しを作成することができる。

② 構想とN I Eとの関連

各自が iPad で作成した見学先の見出しとリード文を、班で、互いに評価やアドバイスをし合う。新聞の作り方で学んだことを項目として用いた評価やアドバイスをもとに修正点を見つけ、見出しを再構築する。

③ 互いの評価項目

- ア 読み手に伝わるように書いているか
- イ 簡潔な見出し（10 字前後）になっているか
- ウ 惹きつけられる見出しになっているか
- エ 見聞したことの内容のキーワードが入っているか
- オ 5 W 1 H を意識して見出しを作成しているか
- カ 記事のリード文に見出しのキーワードが入っているか

④ 主な流れ

- 全体で見出しの評価項目を確認する。
- 各自で、前時に作成した見学先のリード文に見出しを付ける。
- 班で互いの見出しとリード文について、項目ごとに評価・アドバイスし合う。
- アドバイスをするにあたって、体験の内容が正



確に伝えられているか、リード文に見出しのキーワードが入っているかを確認し合う。

○ 各自で、評価やアドバイスをもとに、見出しを再構築する。



### (3) 3学年 総合的な学習の時間「防災について考え、地域に貢献しよう」

#### ① 単元のねらい

互いが作成した防災新聞への意見交換を通して、記事に表れていない他地域の情報や思いに気づき、自分の地域の課題解決に活かそうとすることができる。

#### ② 構想とNIEとの関連

北海道函館市立南茅部中学校とオンラインで繋がり、事前に互いが作成した新聞を読んで、さらに知りたい情報や新聞づくりを通じて抱いた思いを直接交流し対話する。記事を読むだけではわからない情報や相手の思いを知ること、新たな発見や自分たちの地域にも役立つような情報を得ることをねらいとする。



#### ③ 評価

- ・ 南茅部中学生徒との対話を通して、記事に表しきれない情報や思いを引き出すことができる。
- ・ 自分たちの記事に込めた思いや知らせたい情報を相手に伝えることができる。
- ・ 対話を通して得た情報から、自分の地域の課題解決に活かせる情報を選ぶことができる。



#### ④ 主な学習活動

○ 2グループに分かれて、互いに作成した新聞の内容について、オンライ

ンで質問、回答、議論し合う。

(例)・「◇◇新聞」の「△△」の記事ですが、介護の必要な高齢者の方も同じ避難所に避難するのですか？」

・(質問に対して)中郷区では、介護認定をされている高齢者は▽▽に避難してもらうよう個別に計画がつけられています。

○一つの話題に絞り、議論を深める。

(例)・取材した□□さんからは、～と聞きました。～した方が良いと思います。

・その意見に賛成です。中郷でも…。

○両校の代表生徒が感想を発表する。

(例)南茅部の～は、中郷でも利用できそうです。取材した@@さんに伝えます。

○南茅部中学校の新聞とオンライン対話で得た情報をもとに、自分たちの地域に役立つと思うことをまとめる。



## 4 成果と課題

### (1) 生徒の声

- ・ NIEを通して、「誰が、どこで、何を」を大切にして家族や友達に言えるようになったと思う。
- ・ 要約を通して、簡単にまとめるかつ重要なことを落とさずに伝えられるようになった。
- ・ 読むスピードが速くなった。漢字も読めるものが増えた。
- ・ 調べ学習の時に、抜き取りの力が高まったなと思った。
- ・ 友達と話すときに、今の社会の話などが飛び交うことが多くなったと思う。



## (2) 成果

① 生徒アンケート（R6,6月実施とR7,11月実施の比較）から、「新聞を全く読まない（-20%）」「新聞記事やニュースに関心がある（+16%）」「世の中の出来事やニュースを話題にする（+9%）」「新聞やニュースで得た情報をさらに調べる（+13%）」「新聞を読むことが楽しい（+16%）」の項目で数値の向上が見られた。この2年間の取組によって、ほとんどの項目で肯定的評価が上がったことがわかる。新聞を読む分野の中で「政治経済」が2倍となったことが興味深い。委員会や学級活動での取組によって、新聞が身の回りにあることが自然となり、さらに日々のニュースに関心をもつ生徒が増えたのではないかと考える。

② 77%の生徒が「伝える力」や「読む力」「要約する力」などで、自己の力が高まったと自己評価している。ただ感じているだけではなく、「新聞を作ってみて、相手のことを考えながら書くことができた」「テストの時に、スムーズに読むことができ、そこに時間をかけなくなった」などのエピソードとして、普段の生活や授業などの具体的な場面での変化を意識できている生徒が多いこともわかった。

③ NIEを取り入れることで生徒に「どんな力を付けさせたいのか」を明確にした活動ができた。「自分は何を伝えたいのか」「相手に分かりやすいか」などを意識させた学習活動を展開することでスキルだけではなく、「他者意識」の向上にも有効であった。



## (3) 課題

上記の成果にもあるが、生徒自身が自己の成長を自覚できていることが分かる。しかしながら、そうではない生徒も少なくはないことも分かった。

「情報を正確に読み取る力」や「分かりやすく伝える力」といったスキルや情報をもとに「議論を深める力」などの向上や意識の向上は課題であるが、それを補っていくのが、当校の関わり合いながら学ぶということでもあると考える。また、この2年間で培ったNIEのノウハウを学習場面や日常生活にどう取り込み、どう繋げていくのか検討が必要であると考えます。

(小林 保子)

## 担当 NIE アドバイザー及び担当新聞通信社からの一言

### 1 担当 NIE アドバイザー

上越市立雄志中学校 教頭 柳澤 淳



中郷中学校では、目指す子ども像である「自ら学び、考え、行動する生徒」の育成に迫るための手立てとして NIE を位置付け、総合的な学習の時間を中核に全校体制で取り組みました。記事の要約、取材、新聞づくり、他校とのオンライン交流など多様な活動を通して、生徒は情報を整理し、自分の考えを的確に表現する力を着実に高めています。特に、読み手を意識して「伝える」活動に取り組む中で、自分の言葉が相手に届き役立つという実感を得たことは、自己肯定感の向上につながる大きな成果です。また、福祉・キャリア・防災といった地域に根ざしたテーマに向き合うことにより、生徒は課題を自分事として捉え、主体的に調べ、判断し、行動する姿を随所に見せていました。

新聞を介して「触れる・知る・伝える」というサイクルは、他者理解だけでなく地域理解も深め、社会参画への意欲も育みました。中郷中学校の実践は、目指す生徒像の実現に向けた確かな歩みとして高く評価できます。

### 2 担当新聞・通信社

毎日新聞新潟支局長 杉尾直哉



上越市立中郷中学校の皆さまに2年間、NIEの実践・研究に取り組んでいただきました。2025年度の3年生は「防災」をテーマにした新聞作りに取り組みました。

「新聞作りを通じて自分の考えをまとめる力を高めることができたのではないか」「同じ経験をしても一人一人異なる感じ方をしていて、それをより明確に認識できるようになった」。1年生のときから生徒たちをみてきた松井和子先生の感想です。新聞が、若い世代の成長の助けになったのであれば、大変ありがたいです。

中郷中の話ではありませんが、気になることをいくつか。「逆三角形の記事構成」を生徒や児童に指導する場合があります。ウェブ時代の今、実はあまり取られない手法です。子どもたちの壁新聞などで「体言止め」の多用も目につきます。どうすれば飽きずに最後まで読んでもらえるか。ストレスなく体に染み渡るような美しい文体をどう作れるか。日々、私たち記者も格闘しているところです。